

推薦する取り組み

園館名

つながるエンリッチメント「干し芋プロジェクト」

札幌市円山動物園

推薦理由

当園では、築 40 年を超える「モンキーハウス」において、6 種の小～中型霊長類を飼育している。獣舎はコンクリートと鉄製フェンスを主体とした構造であるため、良好な動物福祉の確保に向け、様々なエンリッチメントを継続的に試行している。その一環として、摂餌時間の延長と多様な採食行動の促進を目的に、餌の調理方法について検討を行った。その結果、サツマイモを過乾燥させた硬い干し芋状に加工することで、生または茹でた状態と比較して摂餌時間が 4～47 倍に延長されるなど、良好な効果が得られた。摂餌時間の大幅な延長により、嗜好性が高いにもかかわらず劣位個体も摂餌が可能な状況を作り出すことにも成功した。一方、干し芋づくりには手間がかかり、安定的な量の確保が課題となっていた。

当園では、飼育するアジアゾウの糞を全量堆肥化し、循環型社会の実現や二酸化炭素排出削減に取り組んでおり、近隣の農業法人がこのゾウ糞堆肥を活用してサツマイモを栽培し、規格外品を動物の餌として寄附いただいている。そこで、このサツマイモの一部を用いて、児童発達支援・放課後児童クラブの子どもたちや高齢者を対象に収穫体験および、エンリッチメント用として約 30kg の干し芋を製作してもらった。参加した子どもたちには、実際に動物が干し芋を採食する様子を観察してもらいながら、エンリッチメントの役割や意義について解説したところ、「どのような形状がそれぞれの動物にとって良いか」、子どもたち自らが考え、干し芋づくりに継続して取り組んでもらえた。

この「干し芋プロジェクト」を通じて、動物福祉の向上、飼育員の負担軽減だけでなく、規格外野菜やゾウ糞堆肥の有効活用に加え、子どもたちの食育、高齢者の社会参加など、多面的な価値を創出することができた。

今後、参加者や動物種も拡大し、生態や個体差を配慮しながら、持続可能かつ教育的に意義のあるエンリッチメントとしていきたい。



過乾燥させた手作り干し芋



サツマイモ収穫

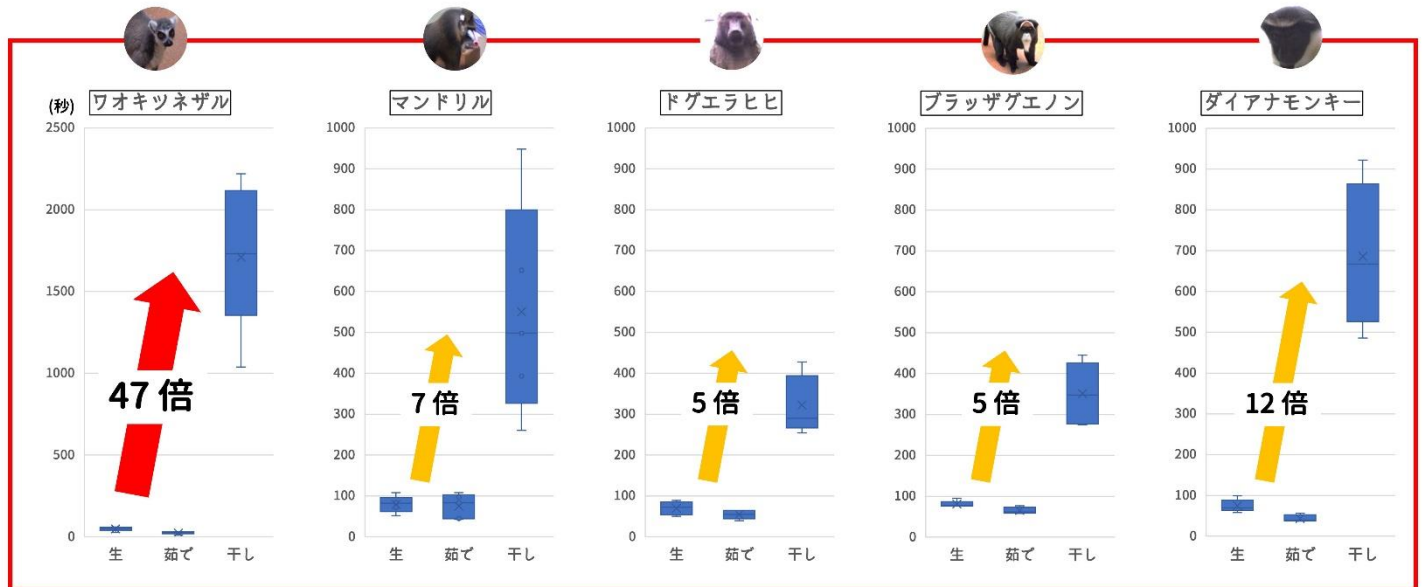


児童や高齢者による干し芋づくり



ワオキツネザルの干し芋摂餌

「生」と「茹で」と「干し芋」の摂餌時間（秒）



干し芋の摂餌時間

推薦する取り組み

園館名

古い獣舎でも地道に～モンキーハウス～

札幌市円山動物園

推薦理由

熱帯雨林に生息する霊長類 6 種が飼育されているモンキーハウスは、築 40 年を超える古い獣舎で、コンクリートと金属フェンスを主体とした単調な構造となっています。しかし、このような制約のある獣舎においても、動物たちのニーズを満たすため、さまざまな工夫を重ねています。

霊長類と言っても種類や個体ごとに得意な行動や能力が異なるため、求められるニーズも一様ではありません。例えば、フサオマキザルの「ハル」は学習能力が高く、非常に器用であることから、その能力を発揮できるよう、複雑な構造を理解することで餌を獲得できる仕組みを複数導入しています。

また、冬季には屋内の湿度が 20%以下まで低下することがあり、乾燥のせいか脱毛や掻痒もみられていましたが、タイマー式のミスト散布に加え、樹皮チップを用いた植栽を導入することで、現在では湿度をおおむね 60%前後に維持できるようになり、皮膚の状態も改善しました。

さらに、天井にはタイマー式給餌器を設置し、飼育員が不在の時間帯にも穀類が落下する仕組みとすることで、常に採食・探索行動が可能な環境を整えています。

URL: 札幌市円山動物園 クラウドファンディング

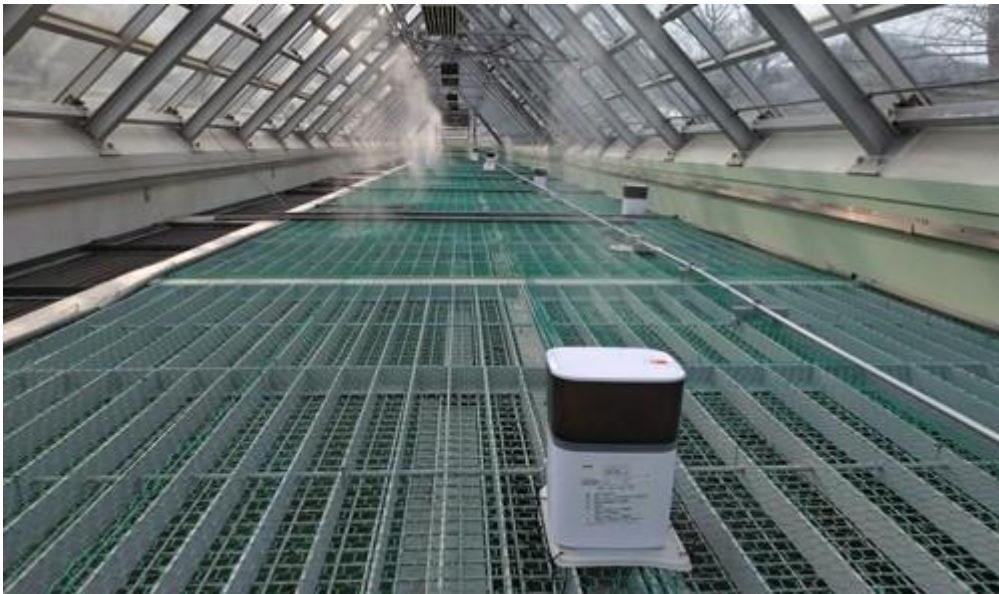
<https://www.furusato-tax.jp/gcf/5186>



フサオマキザル「ハル」



樹皮チップを用いた植栽



ミスト

推薦する取り組み	園館名
モンキーハウスでのエンリッチメント	札幌市円山動物園

推薦理由

円山動物園モンキーハウスが実践する、科学的なデータ検証に基づいた環境改修とエンリッチメントの取り組みを推奨します。同園では、コンクリートの部屋に土壌を敷いてジャングルの生息環境に近づけ、ミストによって高い湿度を維持するなどサル仲間への環境改修を行っています。ただ自然に近づけるだけでなくサル種ごとにエンリッチメントの内容が工夫されていました。特に素晴らしいのは、行動調査によって効果が検証されている点です。採食行動の増加によるストレス軽減や、朝の異常行動の著しい減少といった明確な成果が示されており、異常行動の原因が「給餌待ち」ではなく「屋外を探索したい欲求」の可能性が考察されていました。また、「高齢個体でも適切な刺激があれば活動的になる」という発見は、飼育下の高齢動物のケアにおいて非常に重要な知見です。器具の提供だけでなく、屋内外の行き来を自由にして「サルの気持ち次第で部屋を選べる」という選択権を与えている点も含め、動物福祉の向上に真摯に向き合う素晴らしいモデルケースです。これらの内容がわかりやすく来園者に伝わるようたくさんの解説が設置されていました。

